



まるわかり！日本の防衛

～はじめての防衛白書第3版～

ぼうえい



2

何が？



日本の周りで何が起きている？



なぜ？



なぜ自衛隊が国を守るのか？

じえいたい

自衛隊の役目



みなさんが安心して生活していくためには、平和と安全が不可欠です。そのために自衛隊はいます

警察のいない

国際社会



ロシア軍のミサイル攻撃で破壊されたウクライナの集合住宅（2023年1月）【ウクライナ緊急事態庁ドニプロペトロウスク州本部】

国際社会では、他の国に何かを取られたり、攻撃されたとしても警察のように頼れる存在はいません

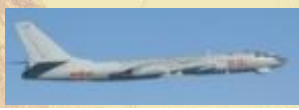
守るための “意思”と“能力” を示す



周りの国や地域に「日本を攻撃するのはやめておこう」と思わせることが必要です

中国

今世紀半ばに「世界一流の軍隊」を築き上げることを目標に掲げ、その実現に向けて急速に軍事力を強化しています。近年、尖閣諸島周辺を含む日本の周りで軍艦や軍用機の活動を拡大・活発化させています。



中国爆撃機「H-6」



中国空母「遼寧(りょうねい)」



中国とロシアの海軍艦艇の共同航行の様子（2021年10月）

北朝鮮

体制を維持するために、核兵器や弾道ミサイルなどの開発や増強に取り組んでいます。既にその能力は、日本を攻撃することができると思われます。



北朝鮮が2022年11月に発射した新型ICBM級弾道ミサイル「火星17」型【朝鮮中央通信】



ロシア軍のミサイル攻撃により破壊されたウクライナの集合住宅【2023年3月5日ウクライナ緊急事態庁】



不法占拠されている北方領土に配備・展開されているロシアの装備【ロシア国防省HP】

ロシア

軍の装備を新しくしており、日本の周りも含めて活発な活動を続けています。2022年2月にはウクライナを侵略しました。これは力によって一方的に現状を変えようとするので、決して許してはいけません。

3

目標！

3つの防衛目標と 目標実現のためのアプローチ



4

どうする？

日本を守るために強化する7つの分野



みなさんの命と平和な暮らしを守るための防衛目標と、目標を達成するためのアプローチを定めています。

3つの防衛目標

① 力による一方的な現状変更を許さない安全保障環境を作る →つまり！日本にとって望ましい安全保障環境を作る！



G7首脳会議に参加する岸田内閣総理大臣（2023年5月）【首相官邸HP】

② 力による一方的な現状変更の試みを、同盟国などと協力・連携して抑止・対処 →つまり！仲間の国々と協力して「日本とは戦争をしたくない」と思わせる！



米空軍戦略爆撃機などの共同訓練（2023年3月）

③ 日本への侵攻が起きた場合、日本が責任をもって対処し、同盟国などの支援を受けながら、相手の侵攻を阻止・排除 →つまり！日本がもし攻め込まれても、確実に守り切る！



水陸両用作戦などの共同訓練（2023年2月）

3つのアプローチ

① 日本自身の防衛体制の強化



次期戦闘機（イメージ）

② 日米同盟によって「攻撃を思いとどまらせる力」「攻撃に対処する力」を強化



海自護衛艦「いずも」への米海兵隊F-35Bの発着艦（2021年10月）

③ 同志国などとの連携の強化



日本、米国、英国、オランダ、カナダ、ニュージーランドによる共同訓練（2021年10月）

① スタンド・オフ防衛能力 攻撃されない安全な距離から、相手部隊に対処する能力



「反撃能力」 わが国への侵攻を抑止するうえでのカギ ミサイル防衛網により、飛来するミサイルを防ぎつつ、相手からのさらなる武力攻撃を防ぐため、有効な反撃を加える能力。 これにより、相手に攻撃を思い止まらせ、武力攻撃そのものを抑止する。

② 統合防空ミサイル防衛能力 ミサイルなどの空から脅威に対応する能力



③ 無人アセット防衛能力 無人装備で情報収集や戦闘支援等を行う能力



④ 領域横断作戦能力 全ての能力を合わせて戦うため、宇宙・サイバー・電磁波・陸海空の能力をさらに高める



⑤ 指揮統制・情報関連機能 素早く適切な意思決定を行うための指揮統制・情報関連機能



⑥ 機動展開能力・国民保護 必要な部隊をすぐに機動・展開するための海上・航空輸送能力。 それを用いた国民保護



⑦ 持続性・強靱性 必要十分な弾薬などの早期の整備、装備品の部品取得・修理、施設整備のためのお金を確保



今のみなさんの命と平和な暮らし、そして日本を守りぬぐため、日本政府は新しい戦略文書を作りました。今後5年間で約43兆円のお金を使い、防衛力を強化します。

5 何してる？

自衛隊の取組 ～日本の最後のとりで～

みなさんの命と平和な暮らし、日本の領域（領土・領海・領空）を守りぬくために、また、災害や緊急事態が起きた場合など様々な事態に対して自衛隊は対応します。

- 外国の航空機への対応**
日本の周辺空域で活動するロシア軍Tu-95爆撃機
- 外国のミサイルへの対応**
弾道ミサイルへ対応できる海自イージス艦「まや」
- 外国の軍艦への対応**
日本の周辺海域で活動する中国空母「遼寧（りょうねい）」
- 新型コロナウイルス対応**
大規模接種センターの様子
- 自然災害への対応**
東日本大震災における活動
- 外国で緊急事態が起きた場合の日本人などの保護・輸送**
スーダンから避難する日本人などの輸送（スーダンから脱出し、自衛隊拠点のあるジブチへ向かう空自C-2輸送機の機内の様子）
- 災害に見舞われた外国を助ける**
トルコの空港で政府専用機から医療資機材などを下す様子

6 れんげい 連携！

宇宙・サイバー・電磁波

地図アプリの位置情報、インターネットで調べもの、携帯電話での通話やテレビ放送…これらの私たちの日常に欠かせない機能は、それぞれ「宇宙空間に打ち上げられた人工衛星」「情報通信ネットワーク上のサイバー空間」「無線通信で利用する電磁波」を活用し、成り立っています。そして、これらは、日本の防衛にとっても非常に重要なものなのです。

- 宇宙**
人工衛星による観測・通信・位置の測定
→軍事施設偵察やミサイル発射を探知
⇒しかし！重要だからこそ衛星破壊を狙う動きも。
- サイバー**
情報通信ネットワークを用いて部隊を動かしたり、情報共有できる
⇒しかし！高度なサイバー攻撃が増加中。
- 電磁波**
スタンド・オフ電子戦機のイメージ
航空機や艦船の通信機器やレーダー、ミサイルの誘導装置を使うためには電磁波が必要
⇒自分が電磁波をうまくつかい、攻めて来ようとする敵が、電磁波をうまく使えないようにする。

7 世界と！

日本は世界とどう協力しているの？

どの国も一国だけで自分たちの国を守ることができない中、「仲間づくり」が重要です。日本は、同盟国・同志国などと連携し、力による一方的な現状変更を許さない安全保障環境をつくりまします。

- 日米同盟**
日米防衛相会談（2023年1月）
- 同志国などとの連携**
アメリカ、オーストラリア、韓国、カナダとの共同訓練「パシフィック・ヴァンガード22」（2022年8月）
- 主要シーレーン**
中東・インド洋、東南アジア、太平洋、南アジア、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ、米国、中南米

日本とアメリカは、自由・民主主義などの**基本的価値**と**戦略上の利益**を共有する、大切な同盟関係。日本とアメリカの利益を守るだけでなく、協力していろいろな国にかかわる問題を解決するための取組をすすめて、世界の平和と安定にも貢献しています。

「自由で開かれたインド太平洋」
日本は、インド太平洋地域を、法の支配に基づく自由で開かれたものとする中で、地域全体ひいては世界の平和と繁栄を確保していく考え方をすすめています。

8 力の源！

防衛生産・技術の強化と人材の確保

- 防衛生産**
一つの装備品をつくるのにも、たくさんの企業が関わっています。民間企業が積極的に防衛の仕事に携わってくれるよう、防衛事業が魅力的なものとなるよう防衛省も様々な取組をおこなっています。
- 防衛技術**
日本の防衛装備品の研究開発・生産・調達を安定的に確保し、新しい戦い方に必要な先端技術を防衛装備品に取り込むためには、日本の防衛生産・技術の基礎を確立することが大切です。
- 人材**
防衛力を発揮するのは自衛隊員です。少子化により自衛官募集の対象になる人口が減少する中、防衛力を「人」の面から強化する取組をすすめています。